

東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野 教授
呉 繁夫

今年3月11日で東日本大震災発生から10年になります。
宮城県では、現在でも多くの県外から小児科診療を支援して頂いています。そのご支援により、石巻市夜間急患センターにおける小児一次救急を継続して実施することが出来ています。震災10年経った現在も暖かい診療支援が続いていることは感謝に堪えません。
また、この支援事業を支えて頂いている東日本大震災小児医療復興新生事務局や宮城県庁医療政策課の方々に心より御礼申し上げます。



石巻市は、人口14万人の宮城県第2の都市です。2020年初めから顕在化した新型コロナウイルス感染症で、宮城県内の小児救急外来の様子も変わり、軽症患者が減り受診されるお子さんの数は減少した半面、重症度が上がりました。急患センターに隣接する石巻赤十字病院には常勤小児科医が5名勤務しており、重症患者のバックアップ体制が整っています。石巻市夜間急患センターの小児科一次救急を「ほそくながく」ご支援頂ければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2021.3.11

今日は2017年3月11日。14時46分に黙祷を行い、丁度6年前となった「あの日」のことを思い出しながら、この文章を書いています。現在、震災で大きな被害を受けた宮城県内の小児医療施設は、ほぼ震災以前の診療機能を取り戻しています。これも全国の方々からのご支援の賜と心より御礼申し上げます。そのなかで、石巻市夜間急患センター小児科には、現在も東日本大震災小児医療復興新生事務局を通じて、小児科医師の派遣を頂いています。震災6年経った現在も多くの先生方のご支援が続いていることは感謝に堪えません。



また、この診療支援を支えて頂いている日本小児救急学会や宮城県庁医療整備課の方々に心より御礼申し上げます。昨年12月1日より、石巻市夜間急患センターは、重症例への対応等で石巻赤十字病院小児科との連携強化を目指し同院敷地内に移転しました。未だ小児科医師不足が続いている石巻市夜間急患センターを今後とも「ほそくながく」ご支援頂ければ幸甚に存じます。

2017.3.11

5年目の節目コメント

震災から丸5年が経ちました。長かったようにも、短かったようにも、感じます。私が東北大小児科の教授に就任する3ヶ月前に大震災が起きたので、私の教授生活は震災復興とぴったり重なっています。その間、全国の皆様に多大なご支援を頂き、何とか今日まで宮城県の小児医療を続けていくことが出来ました。特に石巻市夜間急患センターの運営に関しましては、現在も継続して小児科の診療支援を頂いています。長期間変わらぬご支援を頂いていることは感謝に堪えません。また、この支援システムを設置して頂いた小児救急医学会の齊藤修先生、日程調整を行って頂いている宮城県庁の方々に心より御礼申し上げます。

石巻市夜間急患センターは、現在の仮診療所から石巻赤十字病院隣に新設される建物に移設予定です。東北地方の小児科医師は、まだまだ足りない状態が続いています。今後ともご支援の程どうぞよろしくお願い致します。

2016.3.11

東日本大震災で大きな被害を受けた石巻地域では、損壊を免れた石巻赤十字病院が中心となり、震災直後からの災害医療、その後の地域医療再生を行なってきました。小児救急医療の一角を担っていた石巻市夜間急患センターは震災で全壊し現在仮設診療所で診療を行なっています。東北大小児科は、石巻市の小児医療の崩壊を避けるべく石巻赤十字病院を中心に診療支援を継続しています、しかしながら、石巻市夜間急患センターの診療体制は未だ十分とはいえ、東日本大震災小児医療復興申請事務局や宮城県に同センター小児科の診療応援の募集を御願ひして参りました。これまでに多くの小児科の先生方にご賛同を頂き、同センターの小児科診療を何とか維持して来ることが出来ました。心より御礼申し上げます。今後ご賛同頂ける先生がいらっしゃいましたら、同センターの小児科診療に対するご支援をよろしく御願ひ致します。

2014.3.27

宮城県では先の東日本大震災において、沿岸部の多くの小児医療施設が被災しました。震災直後から全国の先生方に県小児医療に対する多大なご支援を頂き、県内の小児中核病院、地域小児科センターなどの大きな施設の機能をようやく震災前のレベルに復旧させることが出来ました。ご支援に心より御礼申し上げます。しかしながら、石巻地域では小児科クリニックなどの小児医療施設の復旧が遅れ、特に小児の時間外診療体制の復旧が十分ではありません。この度、日本小児救急医学会「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を通じ、皆様に、石巻市夜間急患センターへのご支援をお願いすることになりました。皆様のご協力を心よりお待ちしております。

2013.4.23